

2005年度日本法社会学会

5月13日(金)

14:00～18:00

若手ワークショップ

14:00-15:30 講演: 久保秀雄「職業としての法社会学」

15:35-16:00 ワークショップの今後の運営に関する討議

16:00-18:00 ポスターセッション

18:00～20:00

理事監事会

5月14日(土) 個別報告/ミニシンポジウム

9:30～12:30

*ミニシンポジウム①: 受精卵診断権利確認訴訟の法社会学的意義

司会・コーディネータ: 遠藤直哉(桐蔭横浜大学)

- (1) 遠藤直哉(桐蔭横浜大学)「報告1」
- (2) 大谷徹郎(医師)「報告2」
- (3) 児玉正幸(鹿屋体育大学)「報告3」
- (4) 川嶋四郎(九州大学)「報告4」

*ミニシンポジウム②: 伝統中国に於ける科刑原理と「近代法」

司会・コーディネータ: 松田恵美子(名城大学)

- (1) 松田恵美子(名城大学)「趣旨説明」
- (2) 喜多三佳(四国大学)「自殺誘起者に関する事例: 因果関係概念の相違」
- (3) 中村正人(金沢大学)「過失殺人に関する事例: 過失概念の相違」
- (4) 川村 康(関西学院大学)「精神病者の殺人に関する事例: 責任概念の相違」

*ミニシンポジウム③: 千葉理論再考: 人類学的視点

司会・コーディネータ: 石田慎一郎(国立民族学博物館)

- (1) 馬場 淳(東京都立大学)「多元的法体制論における民衆の実践の在り処: パプアニューギニアの事例」
- (2) 則竹 賢(大阪大学)「「現地人の視点」から見た「多元的法体制」: ミクロネシア連邦ヤップ州の海域紛争における「伝統と慣習」をめぐる」
- (3) 石田慎一郎(国立民族学博物館)「紛争過程の記述・分析における千葉理論の所在: グシイの民事訴訟にみる多元的法体制」
- (4) 藺 巳晴(ノルド社会環境研究所)「現代法における千葉理論: 法の人間学へ向けて」

*個別報告分科会A「司法制度分析」

司会・ディスカッサント: 梶澤秀木(佐賀大学)

- (1) 吉岡すずか(神戸大)「司法過疎地における法的ニーズとサービス供給システム: 沖縄県I市滞在調査より」
- (2) 藤田政博(政策研究大学院)「裁判員制度の実施に向けて: 調査研究の結果から」
- (3) 飯 考行(早稲田大)「日本における裁判官選任の意義: 裁判官に関する法社会学的検討に向けて」

*個別報告分科会B「法意識の数量分析」

司会・ディスカッサント: 菅原郁夫(名古屋大学)

- (1) 藤本亮(静岡大)「法知識水準の計測について」
- (2) 木下麻奈子(同志社大)「人びとの裁判への期待と評価—民事訴訟利用者調査の2次分析—」

- (3) 山田裕子（北海道大）「紛争解決における公正の心理学：被害者側当事者のセルフエスティームに着目して」

12：30～13：30

昼食

理事監事会

編集委員会・企画委員会合同会議

13：30～14：30

総会

14：30～18：00

***ミニシンポジウム④：都市景観保護の法制度設計**

司会・コーディネータ：福井秀夫（政策研究大学院）

- (1) 福井秀夫（政策研究大学院）「民法及び行政法における違法性及び救済手段」
- (2) 久米良昭（那須大学）「景観権 vs 開発権：法と経済学的アプローチ」
- (3) 寺尾美子（東京大学）「日本人の法意識・景観意識と景観法制」
- (4) 長谷川貴陽史（首都大学東京）「公私協働による景観権の保護」

***ミニシンポジウム⑤：ADRの方向性と基本法の位置**

司会・コーディネータ：和田仁孝（早稲田大学）

- (1) 西川佳代（國學院大学）「アメリカにおけるADRの位置」
- (2) 三枝麻由美（イリノイ大学）「シラバス分析から見たADR教育における法科大学院制度導入の影響」
- (3) 廣田尚久（法政大学）「『裁判外紛争解決手続きの利用の促進に関する法律』批判」
- (4) 福井康太（大阪大学）「ADR基本法の理論的位置づけ：柔軟で多様な紛争解決との関係で」

***ミニシンポジウム⑥：多文化社会と法文化：西洋とアジア（インド、日本）の法観念をてがかりにして**

司会・コーディネータ：竹下 賢（関西大学）

- (1) 市原靖久（関西大学）「各論1：「西欧」の法文化に依拠して」
- (2) 孝忠延夫（関西大学）「各論2：インドの法文化に依拠して」
- (3) 角田猛之（大阪府立大学）「各論3：日本の法文化に依拠して」
- (4) 石山文彦（大東文化大学）「総論・総括：多文化主義理論について」

***個別報告分科会C「法理論・言説・運動」**

司会・ディスカッサント：馬場健一（神戸大学）

- (1) 河野良継（大阪産業大）「自由の制御／自由の不平等／自由の強制」
- (2) 瀬戸山晃一（大阪大）「認知心理学・行動経済学の法学への知的寄与と経験主義リアリズム法学：Behavioral Law & Economics の法の社会理論への意義」
- (3) 原田綾子（東京大学）「『子どもの最善の利益』の言説分析：親権終了をめぐる説明の構築」
- (4) 前田朗（東京造形大）「平和運動としての民衆法廷」

***個別報告分科会D「東アジアの法と社会」**

司会・ディスカッサント：米田憲市（鹿児島大学）

- (1) 河村有教（神戸大学）「『被害者司法』と傾向世論との連関性—中国的刑事裁判の断面—」
- (2) 巖太権（立命館大学）「韓国-在外同胞の出入国及び法的地位に関する法律-の適用対象：外国籍同胞を中心に」
- (3) 久保山力也（九州大学）「韓国ロースクール論争と「法と社会」のゆらぎ」

5月15日（日）全体シンポジウム『法主体のゆくえ』

9:00～12:00

***全体会『法主体のゆくえ』**

司会：和田仁孝（早稲田大学）、曾野裕夫（北海道大学）

趣旨説明：山本顯治（神戸大学）「法主体のゆくえ」

報告：田中智彦（東京医科歯科大学）「承認のニードと法主体」

報告：浅野智彦（東京学芸大学）「法主体の変容と自己物語論」

報告：日比野勤（東京大学）「法主体と法制度」

12:30～13:00

昼食

13:00～16:55

***第1分科会：『承認の政治と法主体』**

司会：南野佳代（京都女子大学）

報告：岡野八代（立命館大学）「解放か権利の平等か：『承認の政治』に賭けられているもの」

報告：酒井隆史（大阪女子大学）「『都市への権利』が問うもの」

報告：長谷川晃（北海道大学）「主体・正義・法：<リベラルな平等>のポテンシャル」

***第2分科会：『主体・ケア・物語』**

司会：阿部昌樹（大阪市立大学）

報告：品川哲彦（関西大学）「ケアの倫理の問題提起とその位置づけ」

報告：宮坂道夫（新潟大学）「原則・手順・ナラティブ：医療と規範」

報告：西田英一（甲南大学）「紛争への第三者関与：接触し変形する主体と声」

***第3分科会：『制度と法主体性』**

司会：吉田邦彦（北海道大学）

報告：遠藤比呂通（弁護士）「法主体の実相と位置」

報告：山野目章夫（早稲田大学）「人間・主体・制度」

報告：尾崎一郎（北海道大学）「法主体と公共性」

16:55～17:00

理事長挨拶